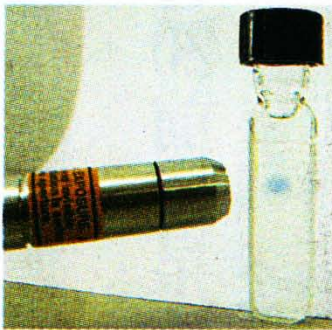


青学大が新化合物

紫外光を当てると青くなり、照射をやめると瞬時に無色透明に戻る有機化合物を、青山学院大理工学部阿部二朗准教授らが開発し、一日付の米化学会誌に発表した。昨年七月発表された緑色に変わる

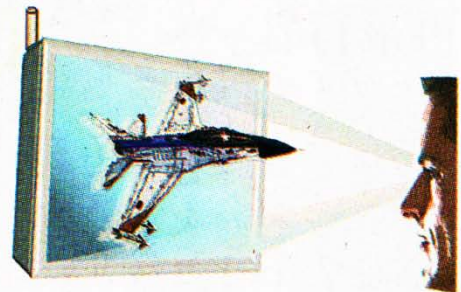
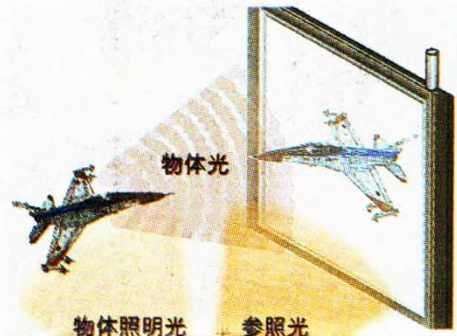
紫外光照射で青、やめると無色に



阿部二朗青山学院大准教授らが開発した有機化合物(ベンゼン溶液に混ぜた状態)。紫外光を当てると青くなり、照射をやめると瞬時に無色透明に戻る11日午前、神奈川県相模原市の青山学院大理工学部

立体TV実現目指す

化合物に比べて反応が極めて速く、肉眼では残像が見えないのが特徴。光の三原色の残りの赤や緑に変わる化合物も開発し、立体カラーテレビの実現を目指す。



今回の化合物は関東化学(東京都中央区)が市販する。この有機化合物の

分子構造は、通常は形に開き、青くなる。A字形だが、紫外光を当てると中央の架橋部分が切れて△字し、無色透明に戻る

さくする(1)で、反応を速くした。樹脂などに使われているホログラフィーを応用すれば、専用眼鏡を掛けなくても見えて立体テレビを開発できる可能性が高い

この化合物を混ぜた樹脂膜に紫外光を照射するだけで文字や画像を表示できるため、電極がいらない低コストの大型ディスプレイが実現できる。さらに、現在はクレジットカードの偽造防止などに使われている

新開発の有機化合物を応用したホログラフィー方式の立体テレビのイメージ(青山学院大の阿部二朗准教授提供)